

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定 (実施結果))

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価 (3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>○シチズンシップ教育と連携した新科目「公共」の研究を推進し、主体的に学ぶ意欲が向上する教育課程編成を実践する。</p> <p>○シチズンシップ教育を通し生徒が自ら課題を発見し解決する力を育み、社会に参加・貢献する能力と態度を育成する。</p>	<p>○シチズンシップ教育を理念としたアクティブ・ラーニングの推進を図り、新科目「公共」につながる生徒の学びの姿を検討する。</p> <p>○公民科科目において、新科目「公共」の在り方(育成すべき資質・能力、指導内容、生徒の学びの姿)を本校独自の視点から検討し、「社会に開かれた教育課程」の編成を推進する。</p> <p>○魅力と特色ある教育活動を推進するとともに、将来の主権者としてより良い社会を形成しようとする意欲や積極的に社会に参加・貢献する能力と態度を育成する。</p> <p>○金融に関する基礎的基本的な知識を身につけ、経済活動における金融の有用性について主体的に学ぶことで、社会の形成者として積極的に社会に参画する態度を身につける。</p> <p>○生徒の読書活動推進と図書貸し出し数の増加に向け、図書館からの情報発信や読書関連の企画を工夫し、利用しやすい図書館にする。</p>	<p>○生徒参加型授業を実践、定着させ、主体的・対話的で深い学びを目指し、すべての授業で言語活動を充実させる。</p> <p>○討論やディベートを授業の中に取り入れ、新科目「公共」につながる生徒の学びの姿を検討する。</p> <p>○生徒に身につけさせたい学力を職員全体で共有し、教授法や教材を工夫し、また、教職員のスキルアップ研修会を行う。</p> <p>○スタディーサポートを活用し、その結果を学年・教科等、職員全体で共有する。また、生徒・保護者向けの分析報告会を実施して、学業に取り組む姿勢の改善を図る。</p> <p>○外部機関と連携した金融教育の研究・実践を推進しながら、職員間で情報共有を図ることで、教科横断的に金融教育のあり方を模索する。</p> <p>○新刊図書の整備活動や図書館広報誌の発行回数増加、図書管理のデータ化を進める。</p>	<p>○「双方向授業」「参加型授業」など、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践の各教科における取組の実数。</p> <p>○生徒による授業評価の結果。</p> <p>○外部評価機関や他校への情報発信によって新科目「公共」に対する本校の取組内容を伝えることができたか。</p> <p>○スタディーサポートの結果の検討が授業実践に生かされたか。また、生徒の取組の改善状況を、家庭学習の時間量の推移で測る。</p> <p>○外部機関と連携した教育活動を通して、金融教育の学びの姿をとることができたか。</p> <p>○職員間の情報共有を通して、教科横断的に金融教育の研究を推進できたか。</p> <p>○新刊図書の整備活動や図書館広報誌の発行回数増加、図書のテーマ展示が前年度より進められたか。</p> <p>○図書管理のデータ化が進められたか。</p> <p>○図書館利用者数を増加させることができたか。</p>	<p>○授業研究会により授業実践に向けた各教科内の取組を深め、生徒による授業評価の検証は全教科でおおむね高評価を得た。「話し合い、発表の機会」に関する項目について、ほぼ全教科で「当てはまる」との回答が75%以上あった。</p> <p>○全銀協や県弁護士会などと連携して、金融教育プログラムや模擬裁判を実施し、新科目「公共」の学びの姿について研究を進めた。</p> <p>○シチズンシップ教育では、ハイスクール議会や模擬選挙の取組を行い、生徒の政治参加の意欲を高めることができ、授業評価にも意欲的に取り組んでいるとの回答が90%以上あった。</p> <p>○横三・湘南地域の学習成果発表会で地域の生徒や職員に新科目「公共」に対する本校の取組内容を発信することができた。</p> <p>○図書閲覧のデータ化は昨年度より約30%進み、進行中である。貸出し冊数は7%減となった。</p>	<p>○授業研究会は、教科間や教員間の指導力をより一層高めるために、内容や実施時期について引き続き検討し、実践していく。</p> <p>○生徒による授業評価について、項目1(全くあてはまらない)の実数が10以上ある教科・科目については、改善に向けた工夫や検討を継続していく必要がある。</p> <p>○外部機関との連携をより充実させ、様々な視点から「社会に開かれた教育課程」を目指した研究を進める。</p> <p>○模擬選挙はプログラムの充実を図り、選挙のない年度の政治参加教育を充実させていく。</p> <p>○新科目「公共」の取組内容を、カリキュラム・マネジメントの視点からの研究と情報発信をする。</p> <p>○図書委員を指導し迅速に新刊対応し、広報誌発行回数を増加、させてデータ化を進める。ブックリストを作成し授業利用を増やすことで貸出冊数増加の改善を図る。</p>	<p>○金融教育プログラムは評価できる。消費者教育をこれからも充実してほしい。</p> <p>○金融教育プログラム、ハイスクール議会、学習成果発表会の主体的・対話的な深い学びの具体的なポイントの整理と明確な目標が必要である。</p> <p>○中学校の勉強と高校の勉強の違いを教えてあげるのはいいことだと思う。その意味で1年生の入学当初に実施する「宿泊研修」には期待をしている。</p> <p>○インクルーシブ教育に力を入れていくために、教員の研修などが必要である。</p> <p>○授業改善について、どのように行っているのか。授業評価などに見えるような成果を期待する。</p>	<p>○目標とするアクティブ・ラーニング型授業の実践は前年度より改善し、授業の質を高める取組を進めることができた。</p> <p>○授業改善について、授業研究会の内容検討を引き続き行う必要がある。</p> <p>○外部機関との連携及び校内での新しい取組により、新科目「公共」への研究推進は2年目として深まってきている。</p> <p>○外部機関との連携を有効活用するため、事前事後の学習活動を丁寧に行う必要がある。</p> <p>○横三・湘南地域の学習成果発表会では、本校の発表に対して良好な評価を得ることができた。</p> <p>○スタディーサポートの結果をどのように活用して生徒の力を伸ばすのか、学校全体として体系的なものとしていくなどの改善をする必要がある。</p> <p>○図書室の効果的な活用が進んだ。生徒の主体的な学びを推進するために組織的な改善を一層進めたい。</p>	<p>○授業評価の回答内容や単元テストへの取組状況の解析から、教育効果の検証を行う。</p> <p>○授業評価について、項目1の実数が10以上ある教科・科目については、一桁にする。また、高評価の数値をすべての教科、科目で80%を超えさせたい。</p> <p>○新科目「公共」の研究は、より具体的な実践の記録を積み重ね充実させたい。</p> <p>○生徒・保護者・教職員の研修機会を多く設定するなど、外部機関との連携を強め、職員の更なるスキルアップを図る。</p> <p>○新科目「公共」の担当者、シチズンシップ教育の担当者として連携した「図書館利用プログラム」を企画したい。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>○心身ともに健康で心穏やかに過ごせるように、不安や悩み、様々な課題を抱えた生徒が自ら課題解決できるよう支援する。</p> <p>○充実した高校生</p>	<p>○部活動や学校行事の更なる活性化をすすめ、高い部活動加入率を維持する。</p> <p>○生徒が活動に主体的にかかわることで得る充実感や達成感を高め、たくましく生きる力を育成す</p>	<p>○部活動や学校行事への生徒の主体的取組を支援する。</p> <p>○部活動で事故が起きないように安全点検を実施する。</p> <p>○日常のあいさつの励行とその質の向上を図る。</p>	<p>○学校行事に係る生徒や地域、保護者からのアンケートによる充実度。</p> <p>○部活動加入率の80%を維持し、活発に活動することができたか。</p> <p>○外部評価者、保護</p>	<p>○部活動加入率は73.6%で80%を維持できなかった。</p> <p>○上位大会に出場する部活動は増え、活動としては活性化できた。</p> <p>○各部活に環境整備</p>	<p>○部活動等への教職員の業務負担を軽減する施策を検討する。</p> <p>○部活動紹介などを通して、新入生の部活動への関心を高められるようにする。</p>	<p>○生徒と教職員の良好な人間関係の中で適切な指導体制がとれているように思われる。</p> <p>○身なりや行動等が良好であり、生徒に安心感がある。</p>	<p>○生徒の安全面、健康面の充実を図る一方、教職員の業務の効率化を図る取組を進めている。</p> <p>○コア会議の定例開</p>	<p>○部活動指導者研修や安全研修等の活用を積極的に推進する。</p>

		<p>活を送るために、部活動や学校行事を活性化する。</p>	<p>る。 ○道徳教育、交通安全教育、食育等によって健全な生活習慣を確立させるとともに、人権教育、防犯教育、防災教育等によって命を大切に、他者を思いやる心を育成する。 ○教育相談体制の充実に努め、カウンセリングを通して自尊感情を育む。</p>	<p>○通学路でのマナー向上と自転車の安全教室等の開催を計画する。 ○「シチズンシップ教育」やすべての教科で「命の大切さ」に係る授業計画を取り入れる。 ○個別面談の充実やスクールカウンセラーと連携を図る。</p>	<p>者、地域からの意見。 ○生徒による授業評価や日常の取組への観察と部活動加入率。 ○部活動の安全点検の実施を確実に行ったか。 ○スクールカウンセラーの活用実績及びコア会議の開催数。</p>	<p>や健康状態のチェック用紙を配付し、定期的に顧問が確認するようにした。 ○AED や CPR の講習会を実施し、緊急時の連絡系統の確認なども行った。 ○延べ SC 面談数 30 名 ○コア会議開催数 24 回開催 共有数延べ 154 名</p>	<p>○安全点検については来年度も継続して取り組んでいく。 ○スクールカウンセラー加配により月来校数が増加。 ○各学年への教育相談コーディネーター配置または回数が増加。</p>	<p>○比較的メンタルが強い生徒が多いが、弱い生徒も少なからずみられる。指導より支援体制の更なる充実を期待したい。 ○教育相談コーディネーター配置の増加の他に取り組むべき課題を具体的に整理する必要がある。</p>	<p>働やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携など、生徒支援体制は年々確実に組織的な取組となっている。  ○必要に応じて、児童相談所や警察などの外部機関の効果的活用も充実している。</p>	<p>○年々、支援を要する生徒が増加するため、担任、保護者との連携を強める体制づくりが必要となる。</p>
3	進路指導・支援	<p>○進路実現に向けた環境を整備し、生徒自らがキャリアプランに基づいた教育活動を実践する。 ○キャリア教育の充実により、学ぶ世界を拡げ、社会とつながる力を培い、質の高い進路実現を図る。</p>	<p>○キャリア教育を推進し、インターンシップやボランティア活動・校外講座への参加者を増やすための方策を検討するとともに、体験の成果を発表する機会を充実させ、自分の将来について考えるきっかけを作る。 ○高大接続改革に向け、より充実した進路支援を目指し、情報収集と改善点の検討を行う。</p>	<p>○進路相談についての外部機関等の講師による研修を実施する。 ○家庭学習の充実と計画的な取組を促すツールの提供を行う。 ○生徒・保護者向け進路便りの発行を定期的に行う。 ○夏期・冬期講習、平日・土曜講習の実施を充実させる。 ○大学入試の英語外部検定試験利用に対応すべく、GTECの導入準備を行う。 ○出願指導等の充実を図るための3学年担任向けの研修を実施する。 ○生徒が積極的にインターンシップやボランティア活動に参加できるよう支援し、文化祭などで体験を発表することで、他の生徒にも知る機会を作る。</p>	<p>○生徒の進路選択・進路実現が達成できたか。（9月調査時点の進路希望の最終決定率70%以上） ○研修が三者面談等に生かされたか。 ○効果的な学習に取り組む生徒が増えたか。 ○生徒・保護者向け進路便りの発行を定期的に行うことができたか。 ○長期休業中の講座、平日講習・土曜講習への参加数が増えたか。（講座受講者数、取組状況） ○GTECの希望者対象受験を実施し、導入に向けた検討ができたか。 ○多くの生徒の体験を発表することで生徒自らのキャリアについて考える機会を与えられたか。</p>	<p>○卒業時には、約90%の生徒の進学就職先が決定した。 ○研修の成果でスタディサポートの結果を使った面談が実施できた。 ○夏期講座数は例年通りだったが生徒の参加数は微減した。 ○年2回、校内での希望受験を実現し、次年度の1・2年の学年実施の準備ができた。 ○家庭での学習及び計画を促すため、「今未来手帳」の配付を始めた。 ○文化祭でインターンシップやボランティア活動の発表や体験内容の展示を33名が行った。校内の生徒だけでなく一般の方々にも発信できた。</p>	<p>○推薦を除き、大学進学希望者の目標校の絞り込みについて、早期からの取組む仕組の整備が必要である。 ○次年度からのGTEC全員受験に向け、英語科と連携した研修を行う。 ○授業＋αの受験指導を提供する。 ○新一年生に「今未来手帳」の全員配付を計画している。 ○インターンシップ活動の発表では良い発表が行われたが、聴衆が少なく、多くの生徒に体験を伝えるための工夫が必要である。 ○引き続き来年度もインターンシップやボランティアへの参加が増えるよう啓発活動を行う。</p>	<p>○大学の求めている「生徒の力」にフィットするように積極的な支援を期待したい。 ○地域でのインターンシップも検討してほしい。 ○1年生のうちから模試の実施や実際に進学した生徒からの声を聞く会などを行って進路について考えられるようにしてほしい。</p>	<p>○進学実績の向上や「シチズンシップ教育」や「公共」を進めていく上でも、生徒が自学自習できる環境整備を進めることができた。 ○夏期講習参加者を増加させるため、講座の充実を図る必要がある。 ○大学入試改革に向けた「宿泊研修」の実施やGTECの次年度実施に向けた取り組み、進路支援体制の整備などの取り組みが進められた。 ○インターンシップやボランティア活動に参加した生徒からの情報発信を、参加者増加への啓発に結びつける工夫が必要である。</p>	<p>○家庭学習の時間を増やすために具体的な数値目標を立て、その方策を年間計画とする。  ○夏期講習に対する生徒のニーズに対応する講座設定をすすめる。 ○「宿泊研修」による「高校での学びの姿勢」の体系づけをして、具体的な成果を上げる。 ○文化祭以外でも発表の機会を捉え、活動内容が広く伝わるようにする。</p>
4	地域等との協働	<p>○地域に開かれた学校としての取組をさらに進め、地域との協働により、学校・地域共によりよい環境を整える。</p>	<p>○地域貢献デーや近隣団体等との世代間交流によって生徒の自発的な活動を促し、公共心を養う。</p>	<p>○年2回春と秋の地域貢献デーによって生徒の自発的な活動を促し、公共心を養う。 ○世代間交流の充実を図り、「いちょうの集い」の規模や時期についての整備を行う。 ○部活動、ボランティアの推進を積極的に行う。</p>	<p>○地域貢献デーの活動によって、生徒の「気付き」を引き出し、地域社会との協働が進めることができたか。 ○部活動やボランティア活動が年間を通して充実して行われ、地域社会の一員としての自覚を生徒に強く持たせることができたか。</p>	<p>○部活動やボランティア活動で地域の行事に積極的に参加があった。 ○5月（全校生徒829名）及び10月（1・2学年生徒554名）地域清掃活動に取り組んだ。</p>	<p>○地域清掃活動の活動場所の見直しと効果的な地域貢献活動の実施に向けて再検討を行う。 ○「いちょうの集い」は、悪天候により中止となった。悪天候時の対応等を検討する必要がある。</p>	<p>○地域とのかかわりを大切にしていることがいいことだと思う。コミュニケーションをとることのできる生徒をこれからも育成して行ってほしい。</p>	<p>○前期の地域貢献デーは地域社会との協働ができた。 ○長期休業中の部活動を中心とした地域へのボランティア活動は地域からの評価も高かった。</p>	<p>○地域に一層関わり、貢献できる生徒を育成するために、部活動やHR活動を推進する。 ○悪天候でも実施できる代替計画を次年度は立てる。 ○コミュニティスクール導入に向け準備を行う。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>○保護者や周辺地域による、本校の教育活動に対する理解を深化させる。 ○保護者の教育ニーズを的確に把握し、協働と信頼に根ざした学校づくりを推進する。</p>	<p>○成績処理支援システムの円滑な運用を図り、事故のない成績処理及び生徒指導要録・調査書作成を行う。 ○職員で事故防止に取り組み、信頼される学校づくりを推進する。</p>	<p>○ホームページの内容を適切に更新し、保護者や地域・県民にとってわかりやすい丁寧な内容に充実させ、開かれた学校として発信する。 ○成績処理及び調査書作成時期を前に事故防止のための研修会を開催する。 ○事故防止に係る点検シートの見直しを随時行う。</p>	<p>○ホームページ内に生徒や保護者に向けたページ等を加え、一層の充実を図り、アクセス数の7万件以上を達成できたか。 ○事故不祥事のない信頼される学校づくりができたか。</p>	<p>○ホームページの情報発信アクセス数は75,000件を超えた ○成績処理支援システムは誤操作などに対する事故防止に努めた。 ○成績処理は緊急時の対応を可能にし、点検シートの見直しを随時行った。</p>	<p>○最新情報をさらに分かりやすく掲載し、本校に興味を持った方々に最新情報を発信していく。 ○事故防止のための研修会は注意点を直視し研修会を検討し事故防止のため、今後も見直しを引き続き行う。</p>	<p>○防災DIG訓練は保護者と連携してもっと充実したものにしてほしい。 ○今の学校のイメージをより良いものにしてほしい。</p>	<p>○継続して不祥事防止啓発研修を実施して地域や保護者の信頼に応えたい。 ○平成28年度学校評価報告書における総合評価の目標は前期で達成できた。より一層アクセス数が増加するよう取り組む。</p>	<p>○成績処理や調査書発行等に事故防止のチェック体制をより強化する。 ○ホームページの学校情報の発信をさらに活発にするため、リンクを活用させたい。</p>